

ふじの ひ

【火】



富士山噴火の「巨大な爪痕」をめぐる 富士山

かつて富士山は噴火を繰り返していた。最後の噴火が起きたのは、今から約300年前の1707(宝永4)年。富士山の噴火史上最も激しい噴火の一つといわれ、その噴火によって、南東斜面に今も残る3つの「宝永火口」ができた。宝永火口をめぐるトレッキングコースは、初心者でも手軽に富士山の美しい大自然や歴史を体感できるとして人気だ。出発は標高2400mの富士宮口新5合目から。歩き始めは火山礫の登りが続くものの、6合目の山小屋からは平坦な道になり、辺りを見渡せば雲海から顔を出す山々や街並、駿河湾などの見事な眺望が楽しめる。そして出発から約30分、待望の宝永第1・第2火口が姿を現す。すり鉢状の巨大なくぼみが目の前に広がり、その迫力に圧倒される。最も大きい第1火口の縁に立つと、火口底を歩く人の姿がとて小さく見え、かつてそこにあったはずの岩や土が噴火によって吹き飛ばされたことを想像すると、自然のパワーの凄まじさを感じずにはいられなかった。復路は、カラマツやダケカンバなどに覆われた樹林帯を抜けて再び富士宮口新5合目へ。約2時間の短いトレッキングだったが、心は達成感で満たされた。



富士山の美しさと歴史を手軽に体感

富士山宝永火口

Note 〒418-0065 静岡県富士宮市中央町16-1 ☎0544-27-5240(公益社団法人 富士宮市観光協会)
宝永火口トレッキングシーズン/6月~10月中旬 <http://www.fujinomiya.gr.jp/>(公益社団法人 富士宮市観光協会)

🚗 新東名 新富士ICより約90分 / 東名高速 富士ICより約95分



宝永火口トレッキングコースは、所要時間60~90分、ゆっくり休憩を取っても2時間あまりで往復することができる。出発点の富士宮口新5合目(標高2400m)と宝永第1火口の標高差は約20mで、勾配もそれほどキツくない。3つの火口のうち、一番大きい宝永第1火口の最大直径は1.3kmで、山頂の火口よりも大きい。噴火した当時、100km離れた江戸の町にも火山灰が降り積もったという。

